

河北新報普及センターと尚絅学院大がつくる名取のメディア

ハナモモ通信

2020年4月



ハナモモちゃん

【発行】
河北新報普及センター
【協力】
尚絅学院大 河北仙阪
【エリア】
名取市内
【部数】
11,600部
【電話】
022(266)2991

なとり仕事人

人とのつながりを大事に システムエイジ

赤間 太地専務

名取を拠点に活躍する企業と働く人を紹介する企画

「なとり仕事人」を始めます。第1回は除菌タオルデイスペンサー販売の「システムエイジ」(関上1丁目)赤間太地専務(39)です。

◇ ◇ ◇

「システムエイジ」は1984年、社長の父・栄治さん(67)が小売業のポイントカードや、青果市場で使われる倉庫管理のシステム制作、販売、運用管理を行う企業として仙台市青葉区で創業。94年に関上に移転しました。

事業を拡大し、社員も10人ほどに増えた2011年3月、東日本大震災が発生。当時東京で働いていた赤間さんは、実家や父の会社がある関上が津波に飲み込まれる様子を知り、ショックで泣いていました。「現実のこととは思えず、腰が

抜けそうだった」と振り返ります。

栄治さんは震災前に受注した仕事をこなし、全社員の再就職先を見つけたタイミングで「会社をたたもうか」。日々終電帰り、徹夜も当たり前という働き方に違和感を感じていた赤間さんは「やりたいことを仕事にしよう」と2012年、Uターンを決意。16年から新規事業を模索するために、カプセルホテルに寝泊まりして、通い続けた東京の商談会。「少ない資源と労力でも最大限地域に貢献できる」ことを念頭に、出合ったのは愛知県豊橋市の「ブルー」が製造する「自動除菌タオルデイスペンサー」でした。高齢化社会にあつて、福祉や医療の分野はニーズの広がりが見込めると分析。東北では数少な

い代理店に名乗りを上げました。

一度機械を購入すれば、除菌液と紙タオルのロール交換などで「お客さまと長期的に付き合うことができ」と赤間さんは業務のメリットを感じています。じっくり、ゆっくりと顧客と向き合う時間が何よりも充実感を生んでくれると目を細めます。

震災発生から9年を過ぎ、インフラは整ったと復興の着実な前進を実感。名取市商工会青年部に入り、若手経営者らとの交流が働き方や、事業を行う上での「いい刺激になっている」と充実感を漂わせます。

新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延により、国内でもマスクや除菌剤が品薄になる中で、商品の問い合わせは日増しに多くなっています。「日々の生活に安心を届ける一助になればうれしい」と期待に応える覚悟を示します。除菌紙タオルというニッチな事業にかける思いは強く、「働く人のちよつとした余裕」を生み出すことが使命」と意気込みます。4月下旬には新社屋が完成するとあつて気持ちさらには高ぶります。「人のつながりを大事にし、コツコツと思いを伝え、ビジネスの輪を広げていきたい」と語る目に力を入れました。



「働く人のちよつとした余裕」を生み出すことが使命」と意気込みます。4月下旬には新社屋が完成するとあつて気持ちさらには高ぶります。「人のつながりを大事にし、コツコツと思いを伝え、ビジネスの輪を広げていきたい」と語る目に力を入れました。

「ハナモモ通信」休刊のお知らせ

日頃より「ハナモモ通信」をご愛読いただき誠にありがとうございます。ごぞいます。

2015年10月に創刊以来、皆様に支えられ発行を続けてまいりましたが、この度の新型コロナウイルスによる感染症の対策として、尚絅学院大学生記者たちも取材活動を自粛せざるを得なくなりました。

誠に残念ではありますが、当面の間「ハナモモ通信」を休刊させていただきます。再開の運びとなりました際には、変わらぬご愛読をお願い申し上げます。

河北新報普及センター
尚絅学院大学